

【農業バイオプロジェクト研究】
特別研究会報告要旨（2006年3月24日）

中国における遺伝子組換技術等の進展、 規制と農産物貿易

（浙江大学経済学院） 顧 国達

中国では、1980年代から遺伝子組換技術の研究開発が進められるようになった。研究開発は、「国家新技術研究開発計画」(863計画)、「国家重点基礎研究発展計画」(973計画)等の国家プロジェクトの一環として実施された。特に2001年11月に開始された「中国農作物遺伝資源遺伝子改良プロジェクト」は農業分野で最重要の研究計画とされ、1億4,960万元が研究費として投入されている。2005年現在、中国の農業生物技術関連研究開発機関は200機関を超え、遺伝子組換技術の基礎、開発、応用研究に取り組んでいる。

遺伝子組換作物の生産許可については、1999年までに、遺伝子組換抗虫綿（中国農業科学院生物技術研究所1997、北京大学1997、モンサント社1997）、変色アサガオ（北京大学1997）、抗ウイルスピーマン（北京大学1998）、遺伝子組換トマト（華中農業大学1997）に対して商業化生産許可が与えられている。

中国で遺伝子組換作物の商業的栽培が行われるようになったのは実際には1996年からであり、同年の栽培面積は11.25万ヘクタールであった。これが2000年には130万ヘクタールを超え、2004年には310万ヘクタールとなり、世界の遺伝子組換作物栽培面積の4.5%を占めている。作物別では、遺伝子組換綿花が栽培面積のほとんどを占めており、1996年1.7万ヘクタール、1998年24万ヘクタール、2000年126万ヘクタール、2004年306.7万ヘクタールとなっている。なお、遺伝子組換綿花栽培面積は、中国綿花栽培面積の7割を占める。

このように、現在の中国での遺伝子組換作物の生産は非食用農作物が中心であり、食用農作物の商業化生産については慎重な対応がなされている。遺伝子組換稲は、すで

に1999年から湖北省、福建省等で中間試験、環境放出試験、生産性試験等の安全評価試験が行われ、2005年には商業化生産の申請も提出されているが、現在まで許可は出されていない。ただし、今後5年間で、3～5種の遺伝子組換作物の商業化生産が考えられており、その中には稲、トウモロコシ、小麦、ナタネが含まれている。2010年には、中国の遺伝子組換作物栽培面積は、780万～1,400万ヘクタールに達するものと推計されている。

遺伝子組換作物に関する規制については、2001年の「農業遺伝子組換生物安全管理条例」が基本法規となっている。これに基づき、農業部は2002年に「農業遺伝子組換生物安全評価管理方法」、「農業遺伝子組換生物輸入安全管理方法」および「農業遺伝子組換生物標識管理方法」を公表した。このうち、「農業遺伝子組換生物輸入安全管理方法」については、アメリカから規定内容についての抗議があったため実施が延期され、2004年になって施行された。

中国は、世界でも主要な遺伝子組換農産物輸入国である。1996年以来、中国は大豆、ナタネ、それらの低加工品を輸入してきており、輸入量は年々増加している。中国の大豆輸入量は2005年で2,659万トンであり、そのほとんどをアメリカ、ブラジル、アルゼンチンに依存しているが、アメリカ産大豆の7割、ブラジル、アルゼンチン産大豆の9割は遺伝子組換大豆と推定されている。このほか、中国が輸入した豚肉、牛肉、鶏肉の一部は遺伝子組換農作物を飼料としている。

中国の人口は13億を超えているが、2030年には16億に達すると推定されており、毎年7.5億トンの食糧供給が必要となる。遺伝子組換生物の危険性は無視できないが、前向きな態度が重要である。

（文責 河原昌一郎）